

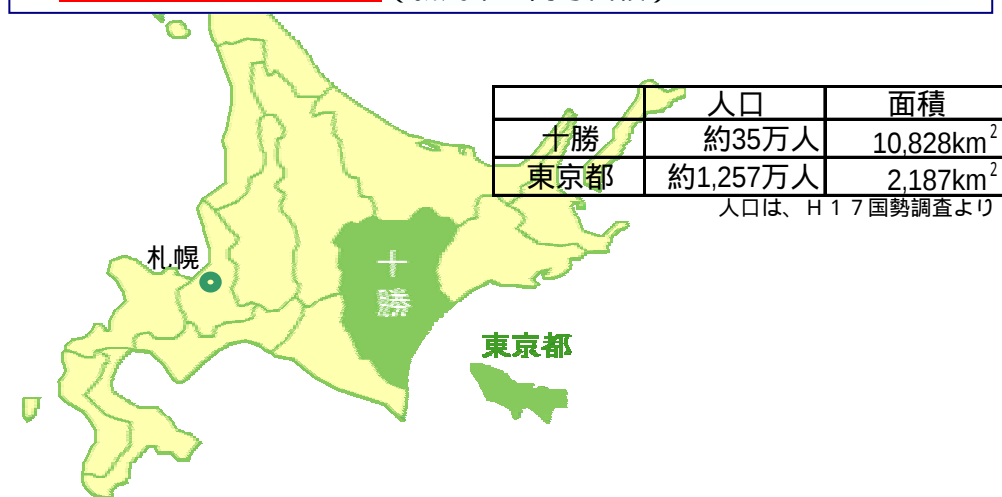
21世紀生活圏研究会 試行的調査(十勝地域)

北海道開発局

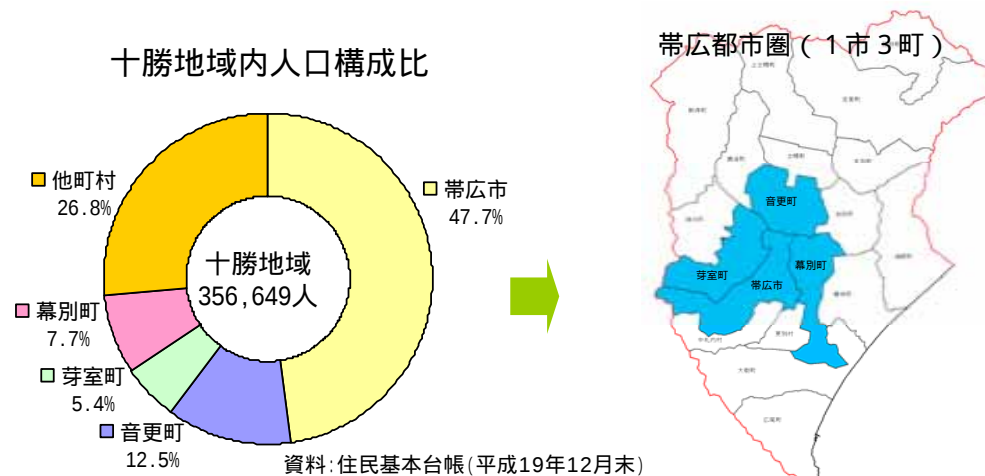
平成20年12月16日

人口、地勢から見る十勝地域のすがた

- ・十勝地域は、東京都の約2.8%の人口で東京都の約5倍の国土面積を保全。
- ・十勝地域の総面積は、10,831.24km²（全道の13.0%）であり、全道14支庁の中で一番広い。（新潟県と同等面積）

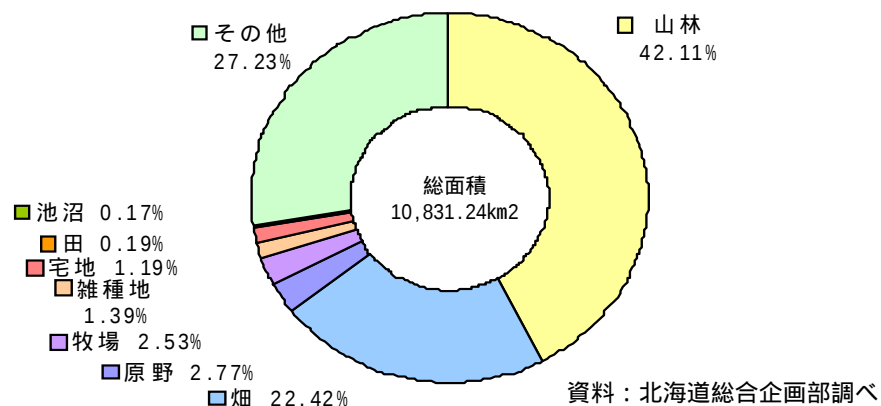


十勝地域の人口は、35.7万人(全道の約6%)であり、帯広都市圏(1市3町)に26.1万人(十勝地域の約73%)と集中している。



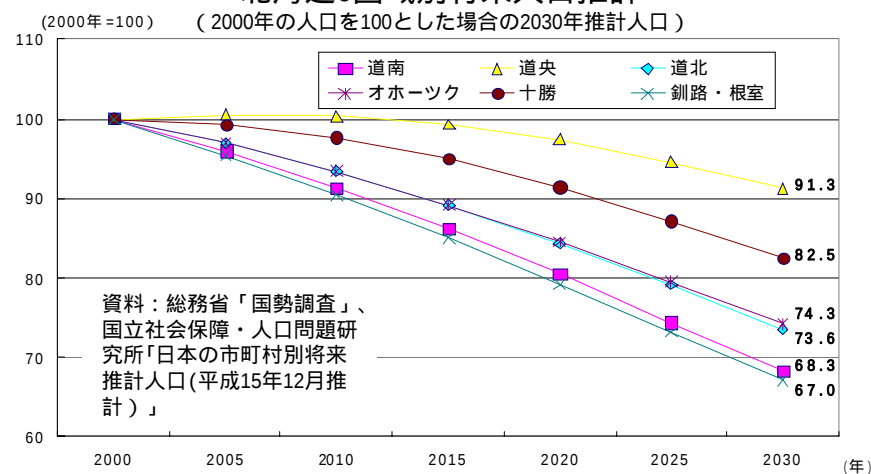
- ・土地利用構成比は山林が42.1%、畑が22.4%、牧場が2.5%を占めている。

土地の利用構成比



現在、人口は減少傾向にあり、2030年には29.5万人となると推計されている。

北海道6圏域別将来人口推計



- ・北海道内での各圏域間の取引額から、道央外の5圏域のいずれも、道央との関係が深いことがわかる。
- ・一方で、道央以外での圏域間での取引額の規模は相対的に小さい。
- ・十勝を中心に見た取引額の状況は隣接する4圏域の内、道央を除くと釧路・根室が多く、道北は小さい。

道外及び各圏域間の取引金額

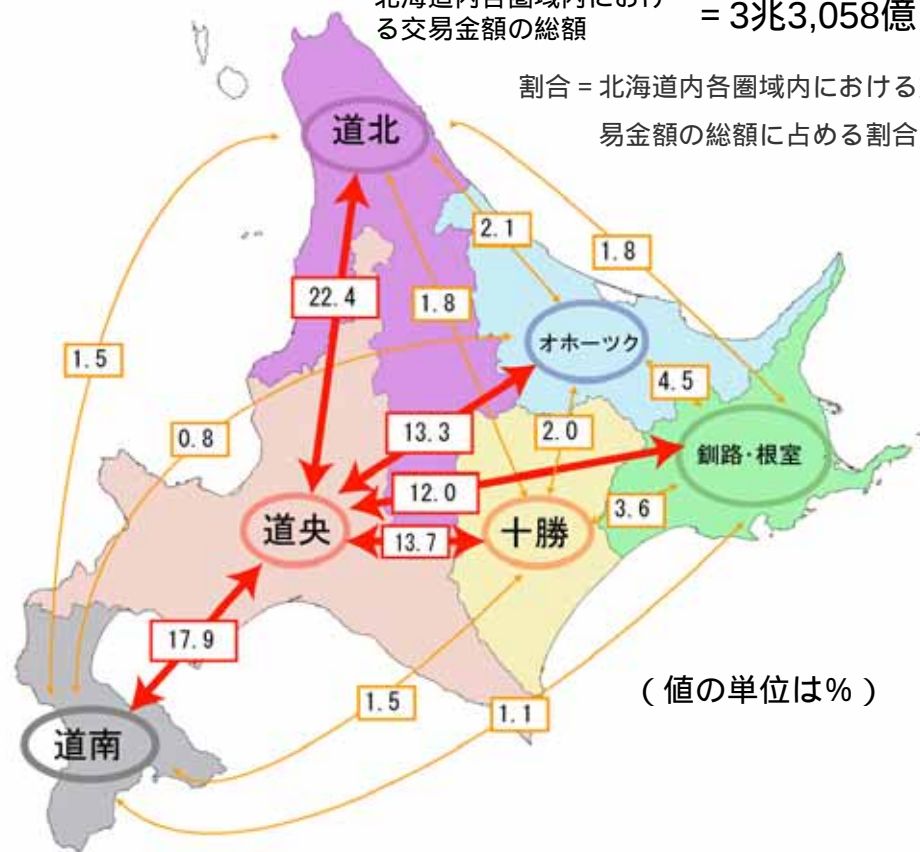
						(億円)
道央	5,929	7,390	4,401	4,521	3,952	87,426
	道南	493	270	492	379	11,851
		道北	710	595	579	13,885
		オホーツク	670	1,483		9,567
			十勝	1,193		9,043
				釧路・根室		11,400
				道外		

平成15年北海道内地域間産業連関表(北海道開発局)

北海道における各圏域間の取引金額の割合

北海道内各圏域内における取引金額の総額 = 3兆3,058億円

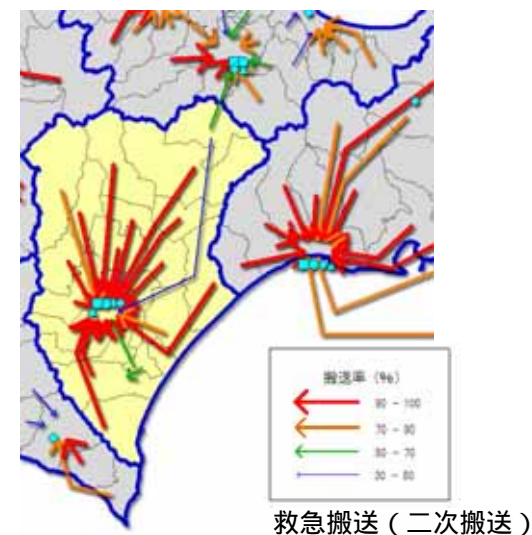
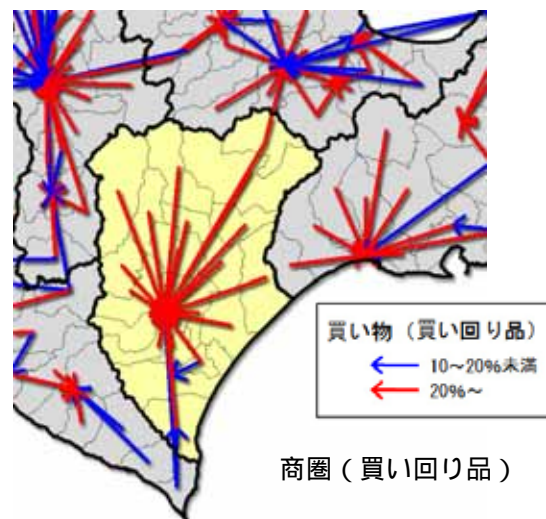
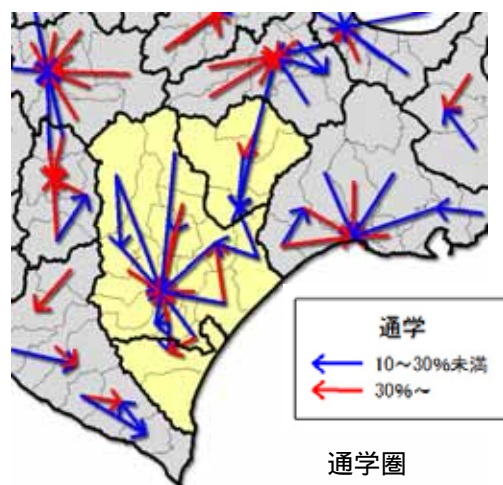
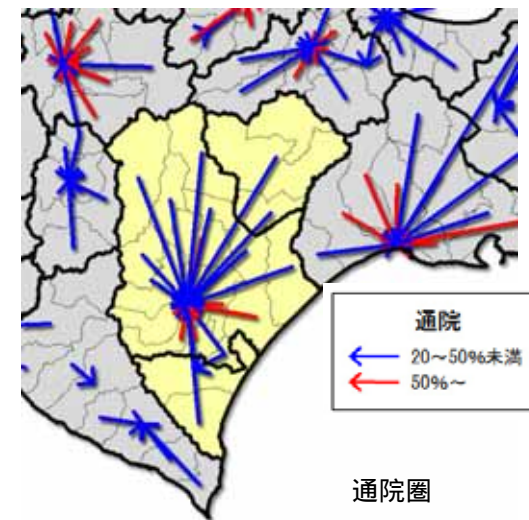
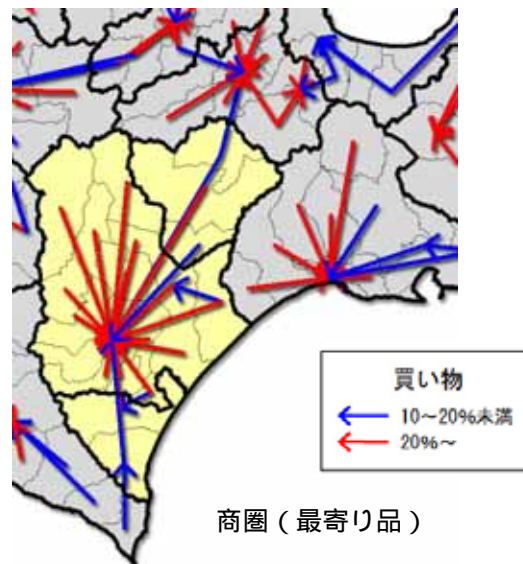
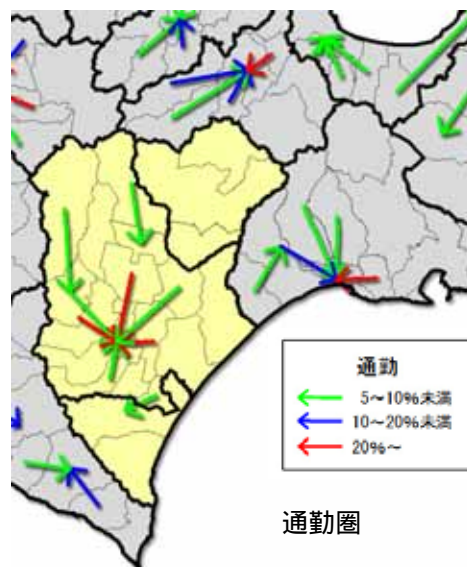
割合 = 北海道内各圏域内における取引金額の総額に占める割合



(値の単位は%)

平成15年北海道内地域間産業連関表(北海道開発局)

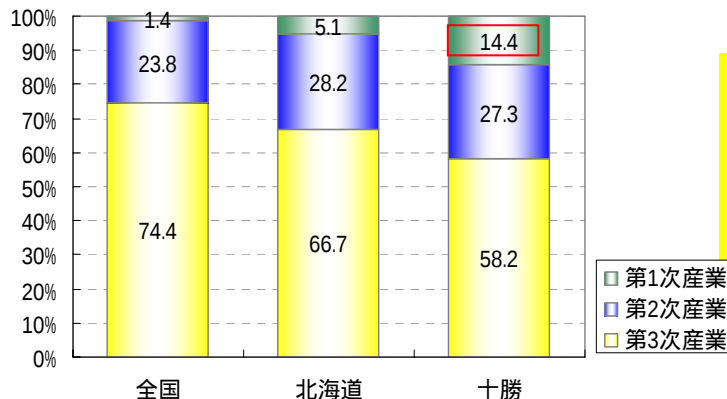
- 十勝の通勤、通学、医療、買い物の動向については、商業施設や高次医療施設などが帯広市を中心とした都市部に集中しているため、都市部への依存度が大きい。（モノセントリックな地域構造）
- また、買い物（買い回り品）、救急搬送（二次搬送）については陸別町からオホーツクに向かう動きも見られる。



産業からみる十勝地域のすがた

- ・十勝地域は、農業、林業、漁業などの第1次産業が盛んであり、特に農業は十勝地域における中心産業となっている。
- ・北海道は全国に比べ、第1次産業の割合が高くなっており、更に十勝地域は北海道と比べ割合が高くなっている。
- ・第2次産業については農業が盛んなことから、製造業の内、約7割が食品製造業が占めている。
- ・農業就業者の年齢構成は全国と比較して比較的若い世代が多い。

(3部門別産業構造の割合) 平成15年産業連関表(全国) 平成17年北海道内地域間産業連関表(北海道、十勝)



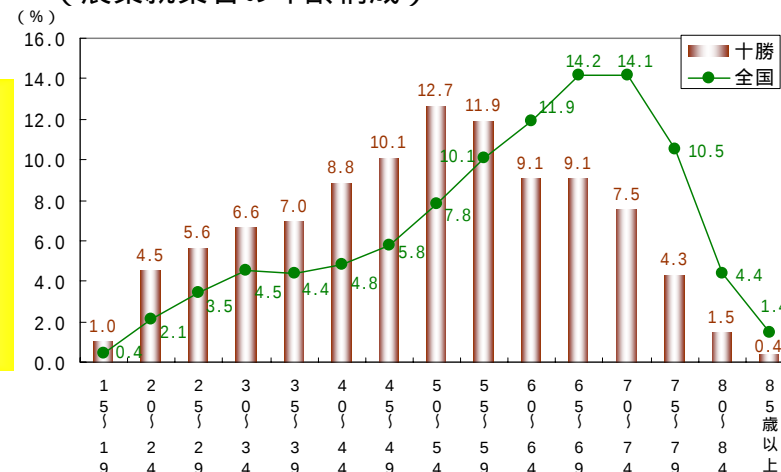
【十勝地域の各産業の内訳】

第1次産業の内訳
(農業95%、林業3%、水産業2%)

第2次産業の内訳
(鉱業2%、製造業53%、建設業45%)

製造業の内訳
(食品製造業71%、その他29%)

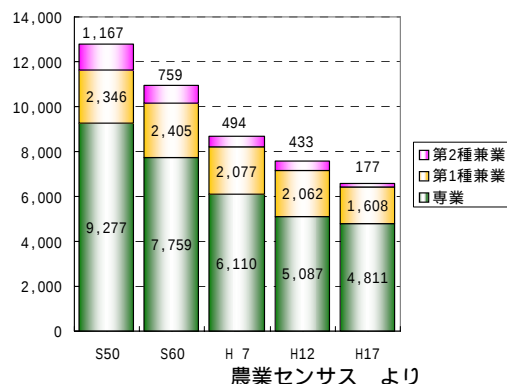
(農業就業者の年齢構成) 2005年国勢調査



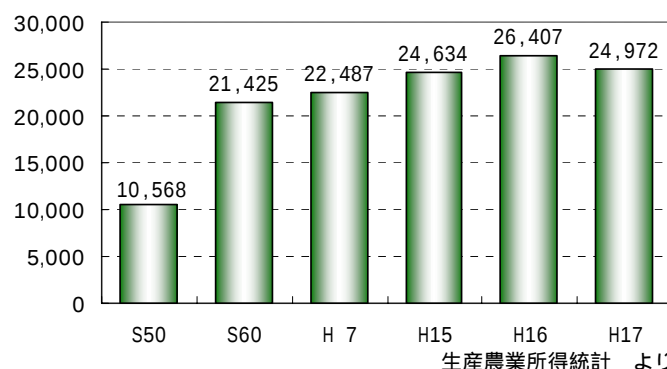
十勝地域の農業

- ・十勝地域の農家戸数の減少は進んでおり、平成17年度には6,596戸となった。
- ・一方、農業産出額については、畑作・酪農の規模拡大や土地基盤整備などにより、昭和57年には初の2,000億円を突破し、昭和59年以降、現在に至るまで2,000億円台を記録している。
- ・平成17年度の農業産出額は全道の約23%を占め、全道一となっており、地域経済を支える主要な産業として位置づけられている。

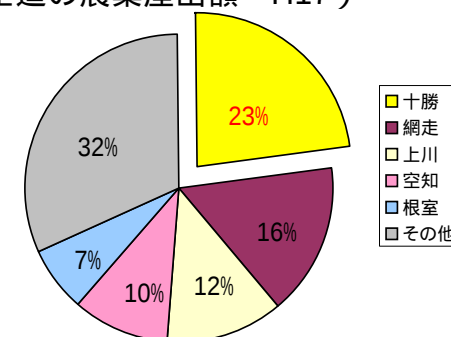
(十勝地域の販売農家戸数の推移)



(十勝地域における農業産出額の推移)



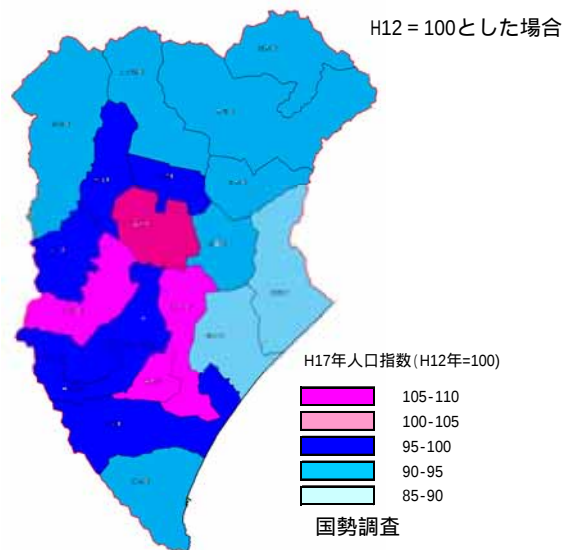
(全道の農業産出額 H17)



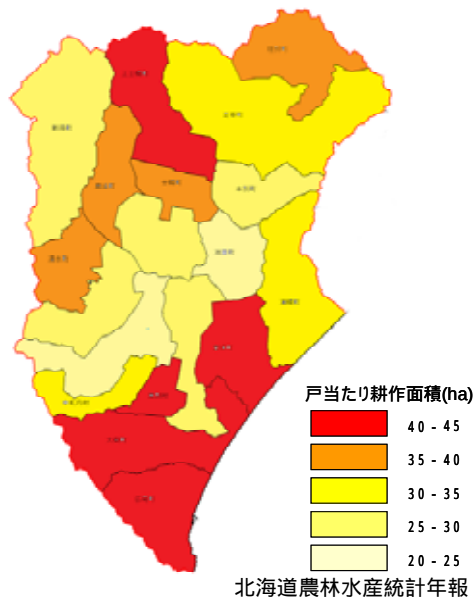
十勝地域の農業の課題

- ・帯広市からの時間距離が長い圏域周縁部において、人口減少と農業経営の大規模化が進展。
- ・また、農業経営の大規模化が進んでいることから集落形態が散居化し、地域コミュニティの衰退等の問題を抱えていると考えられる。

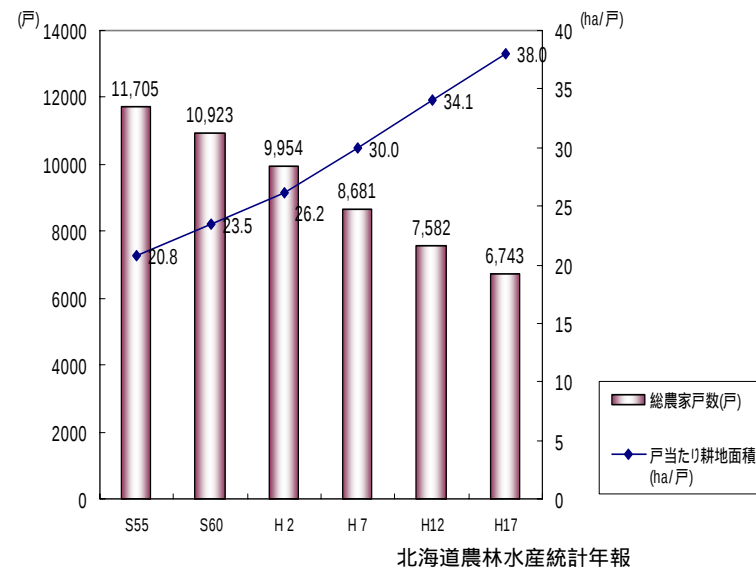
十勝地域における人口指数（H17）



十勝地域における市町村別戸当たり耕作面積（H19）



十勝地域における農家戸数及び戸当たり耕作面積の推移



十勝地域の農産品の高付加価値化

- ・近年、十勝地域の農産物や農産加工品のブランド化が進んできており、特に「十勝産ながいも」は、本州方面に通年的に出荷されているほか、台湾などを中心に海外にも輸出されている。
- ・一方、農産物の大部分は原材料として移出されている割合が高いことから、加工品にして高付加価値化を行うなどさらなる地域ブランド化の推進が必要である。



■十勝 川西長いも



■柳月「三方六」



■中札内村「そのままえだ豆」



■十勝本別「キレイマメ」

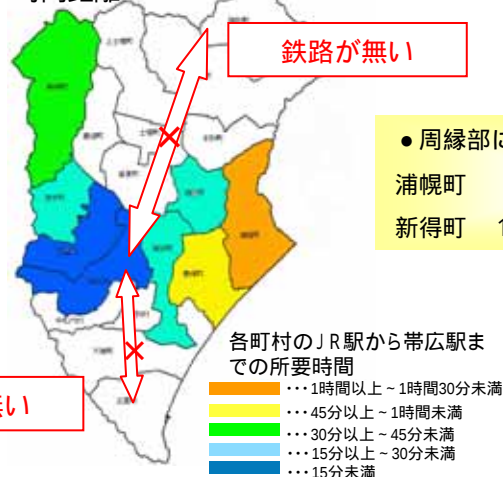
【十勝地域に所在する 主な工場の従業員数】

明治乳業(株)十勝工場(芽室町)	約80名
” 十勝帯広工場(帯広市)	約170名
” 本別工場(本別町)	約80名

十勝地域内の交通ネットワーク

- ・陸別町、足寄町、広尾町など周縁部では、鉄路が無く、帯広へ向かうバスの本数も少なく、2時間以上の長距離移動を強いられることなど、公共交通の利便性が悪い。

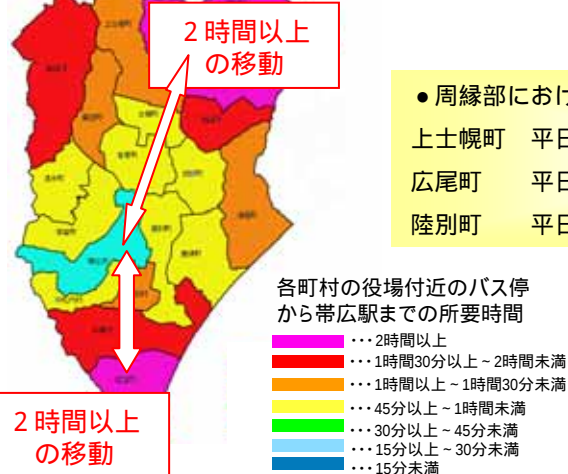
JR時間距離



- ・周縁部における帯広行きJR本数
- | | |
|-----|-------------|
| 浦幌町 | 9本/日(1:00) |
| 新得町 | 12本/日(1:00) |

JR時刻表より

バス時間距離



- ・周縁部における帯広行きバス本数

上士幌町	平日	8本/日	休日	6本/日(1:10)
広尾町	平日	14本/日	休日	10本/日(2:23)
陸別町	平日	9本/日	休日	7本/日(2:54)

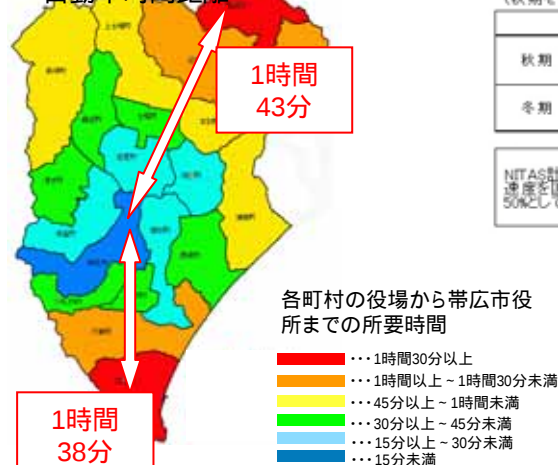
バス時刻表より

- ・医療などの生活機能の大半が中心市である帯広市に集中しており、また地域内の幹線道路網の主軸を成す高規格幹線道路については、整備途上といった状況にあり、そうした中、地域内の周縁部においては帯広都市圏への移動に1時間30分以上の時間を要し、冬期については気象等の影響から更に時間が増す。

十勝地域の交通ネットワーク



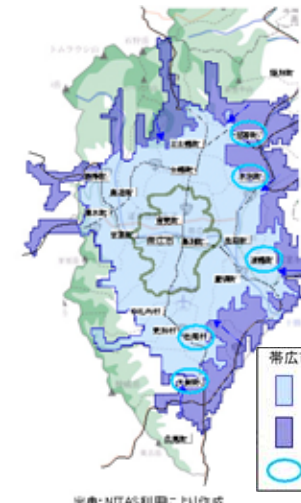
自動車時間距離



1.5時間圏人口・面積の比較
(秋期を1.0とした場合の比率)

	人口	面積
秋期	34.2万人 (1.00)	5,094km ² (1.00)
冬期	30.9万人 (0.90)	3,389km ² (0.67)

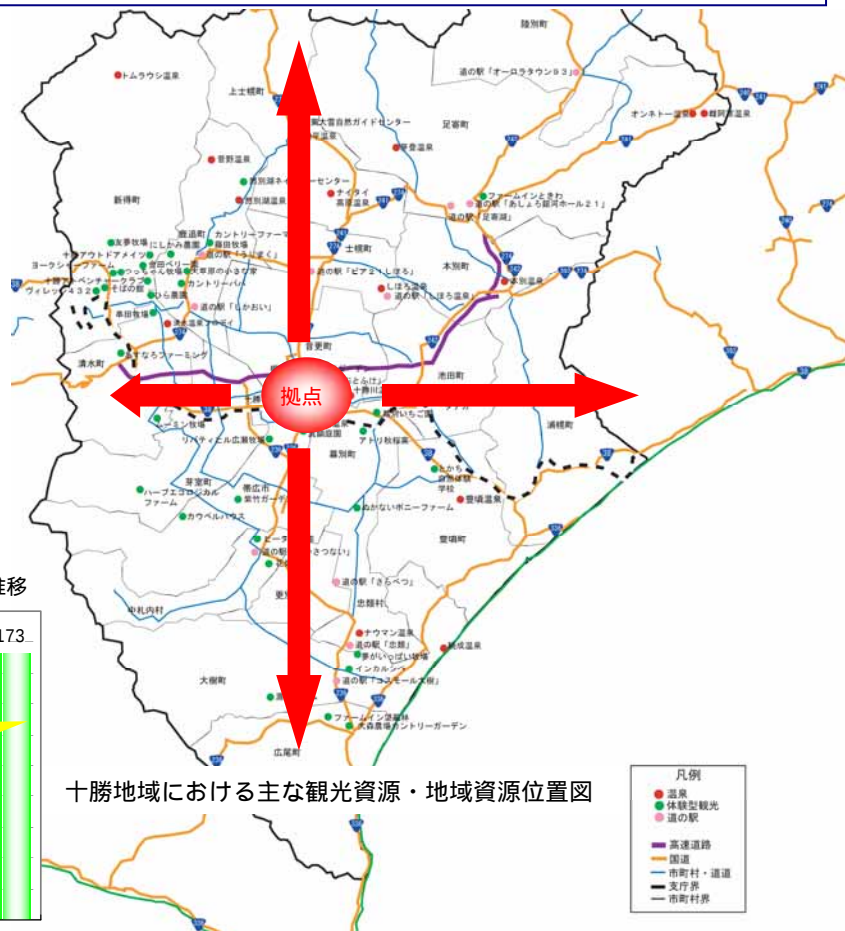
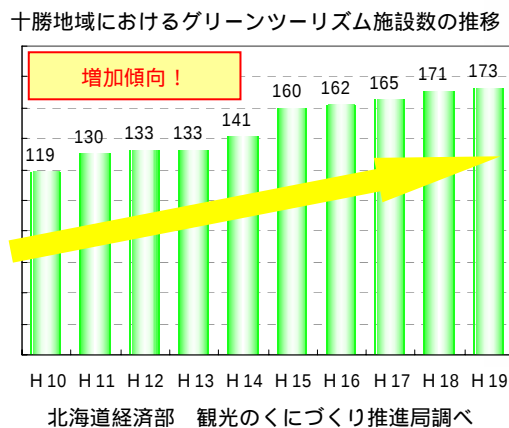
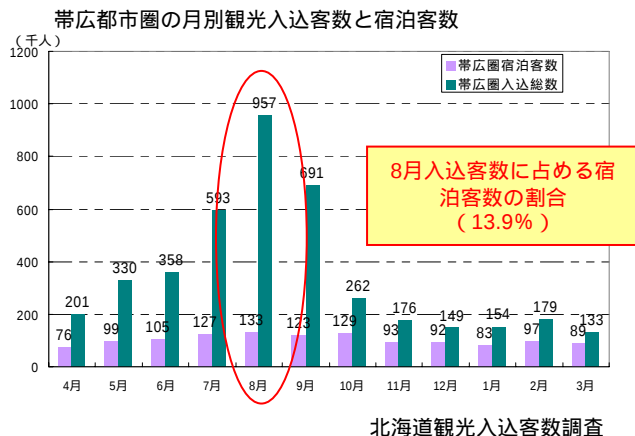
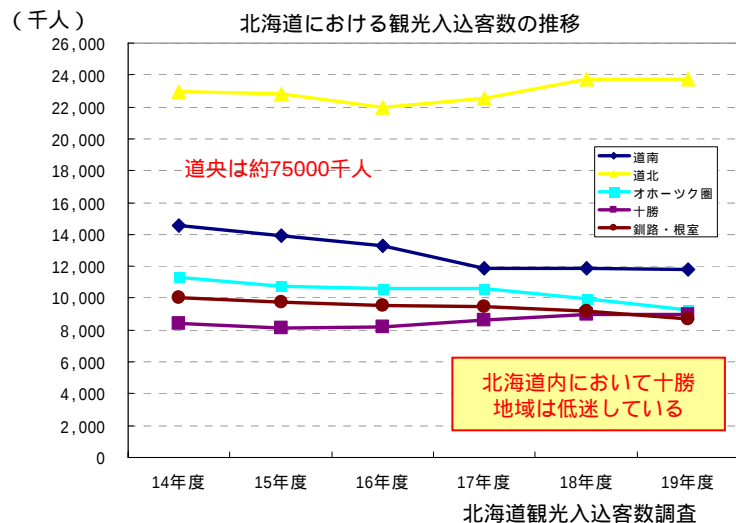
NITAS計算では、通常期に対して冬期の旅行速度を国道88%、道道92%、その他市町村道50%として、圏域を計算



出典: NITAS利用により作成

低迷する観光入込客数

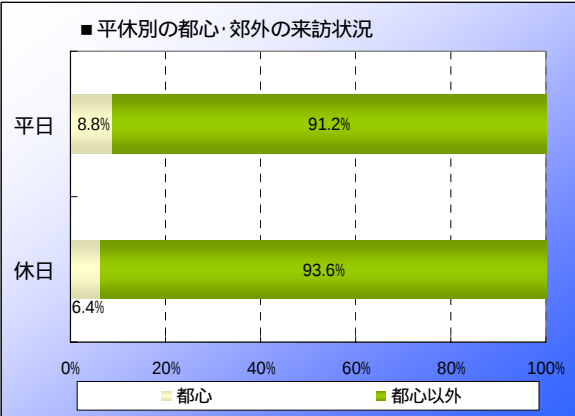
- ・十勝地域における観光入込客数は他の地域に比べて低迷しているものの微増傾向。
- ・グリーンツーリズムを始めとする観光資源は増加傾向であることから、一層の観光情報発信が必要である。
- ・十勝地域の観光特性は季節変動の激しさや、夏期の宿泊客数の少なさ（通過型観光）などがあげられ、年間を通じた滞在型周遊型観光への転換が重要である。
- ・近年の観光流動を見ると、東西方向、南北方向共に帯広が中枢となっていることから、今後、帯広を拠点とした東西軸や南北軸の強化が必要である。



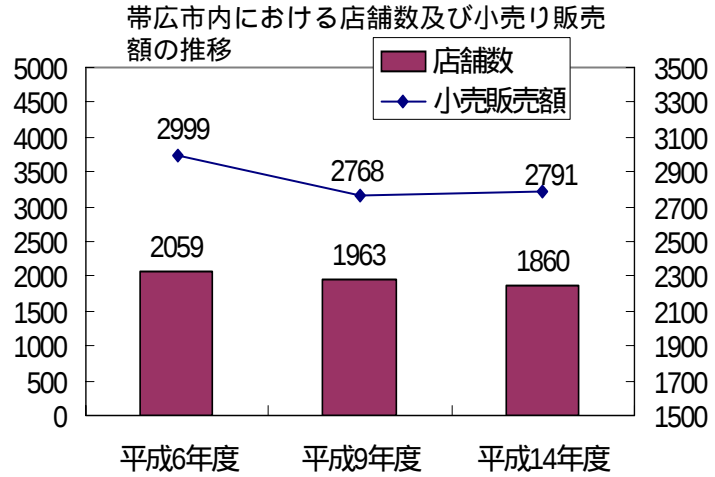
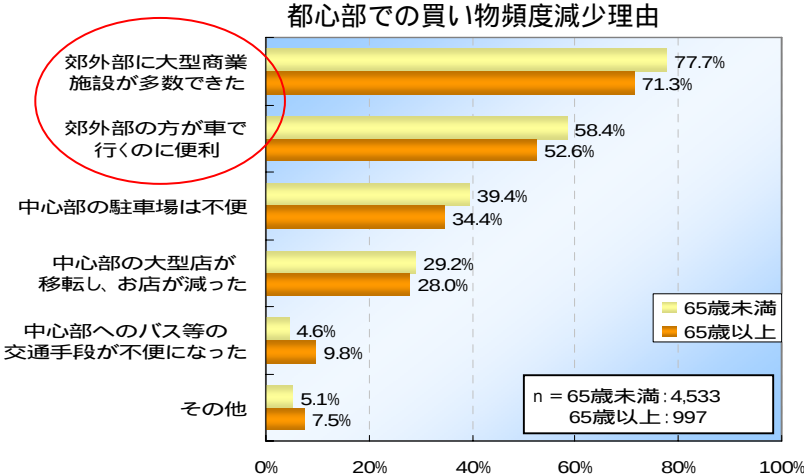
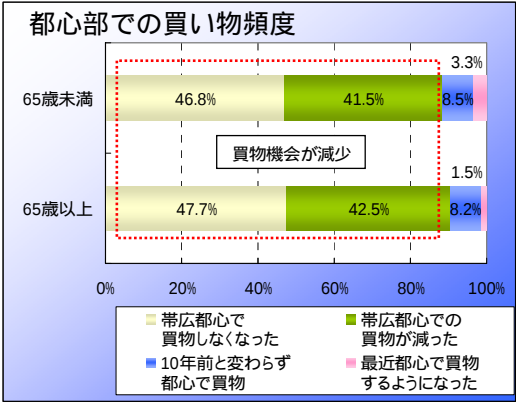
十勝地域の暮らしを支える帯広市における課題

・ 中心市街地の衰退

- ・ 平休日の来訪状況では9割以上が帯広都心以外を訪れている。
- ・ 都心での買い物機会が減少した理由は、大型商業施設が郊外部に出来たとの回答が最も多く、交通の便や駐車場の不便さが次いで多い。
- ・ 十勝地域を支える帯広市の中心市街地や公共交通機関などといった生活機能が低下しており、将来、人口減少等によりさらにすすむことが予想される。



H17帯広圏個人意識調査（18才以上対象）

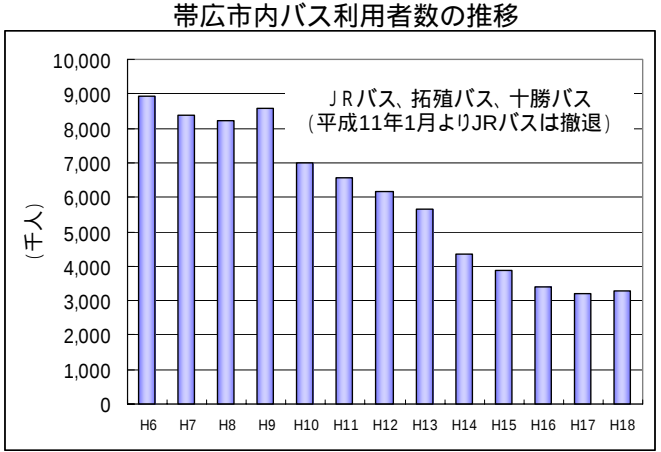


商業統計調査より

（「藤丸」の売上高の推移）

H5・・・14000百万円
→ H10・・・13000百万円
→ H19・・・8500百万円

中心市街地衰退に伴い、帯広市内にしかない百貨店の一つである「藤丸」の売上高が減少





情報過疎の対策をお願いしたい。中山間の農山漁村ではまだまだ携帯の電波が届かない場所もあるし、ブロードバンドや光回線も整備されていない。現在は、防災だけではなく、農業をはじめとする、あらゆる産業で迅速な情報収集が重要である。（陸別町）

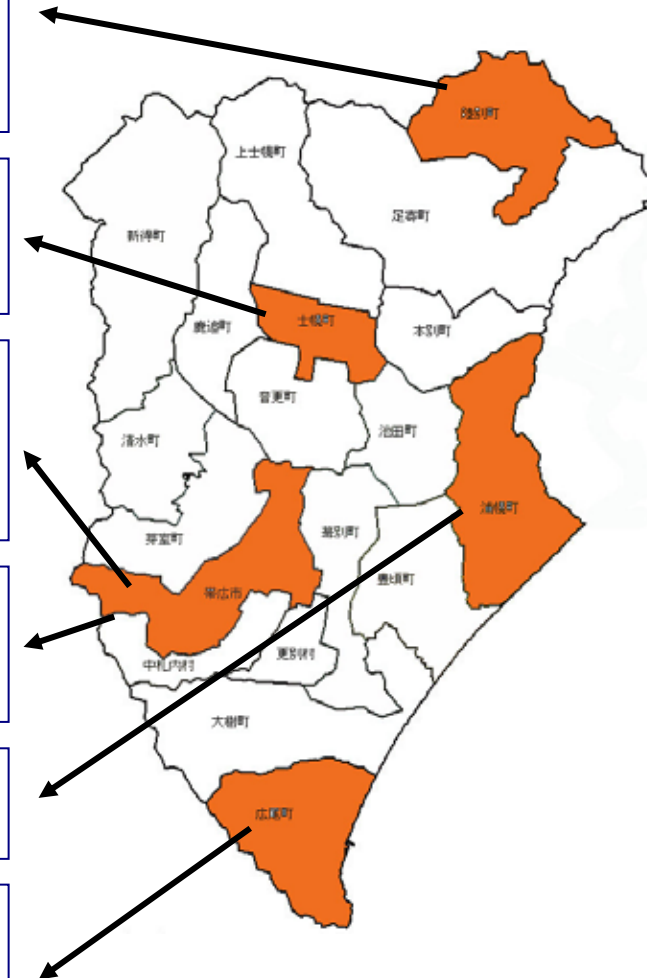
全体の方向性はよいと思うし、農業、商業、観光と言った部門毎の方向性も問題ないと思うが、十勝全体の産業力を上げるには、産業間の連携を進めていく必要がある。（土幌町）

冬期路面状況が悪いため自家用車ではなく、バスを利用したいが、時間通りに来ないためやむを得ず自家用車で通勤している。安心できる冬期の路面状況の改善を望みます。冬期は住みにくいです。（帯広都市圏に住む30歳代の地域住民）

老人活動が活発になっており、車を利用する人が増えている。自宅周辺に店がなくなっていることなどがから自家用車の運転が主である。（帯広都市圏に住む高齢者の地域住民）

子供の夢や目標に応じて高校を決めさせてあげたいが、通学時間や経済的負担などを考えると選択肢はほとんど無くなる。（浦幌町に住む30歳代の男性）

十勝管内でこれだけ医療格差があるなんで健康なころは思ってもみなかった。今後は病院に通うためだけに、帯広市に家を借りて一人で住むことも考えている。（広尾町から帯広市の病院に週3回通う高齢者）



調査方針

調査の視点

- ・ 主要な地域産業（農業、食品加工等）の維持・発展
- ・ モノセントリックな地域構造
- ・ 圏域周縁部の人口減少
- ・ 地域資源を活用した観光振興



地域の現状の把握・課題の抽出

生活機能の配置に関する調査

- ・ 既存統計資料等を基に各機能の配置状況を調査
- ・ 現況の各機能への時間距離の把握（冬季、夏季）

生活実態等に関する調査

- ・ 既存資料及びヒアリング等により、必要とされる機能とその重要度合いや、人や物の動き等を把握

将来の機能の配置や人口動態等について調査

十勝地域における課題の抽出
地域の強み・弱みの分析

地域が目指すべき方向性（仮説）の立案及び検証

調査の視点を踏まえ、課題を解決するために地域が目指すべき方向性を検討し、その有効性・実施可能性を検証。

目指すべき方向性に基づく具体的な目標・実施方法の検討・提案

十勝地域における調査検討会において検討